

きの翌年)に宮城の深谷にて誅せられているとある。また、清泰の長男信泰は家督を継ぎ、次男泰常は金沢の地に分立したが父と同じく深谷で処罰されているとある。後の信泰の消息については不明のようだが、信泰の子信覚は深谷の難を逃れて仙北に走り剃髪して平泉にて坊中に逃れたとある。すなわち、寺崎系楊生城主千葉氏は二代目清泰もしくは三代目信泰で滅びたことになる。なお、信覚の子頼覚は毛越寺普賢院山繞坊を再興し中興の祖となっている。

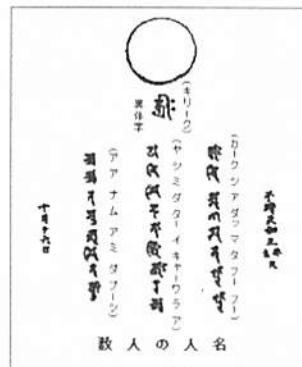
## 5. 石塔(婆)について

弥栄地区内には中・近世建立の石塔(婆)がいくつか見られる。そのうち調査区内の南東側にある江戸中期の石塔と、岩手県内でもあまり見られない中世期建立のものを紹介しておく。

(調査区内の石塔) 高さ1m、幅60cmぐらいのもので、天和三年(1683年)に建てられており、下に人名が刻まれている。神社・仏閣の参詣のための信仰的講を表した庚辰塔に類するものか、あるいは花泉史に「天和三年に流地域において河川増水被害」とあり、その時の被災者に対する供養塔とも考えられる。庚辰塔だとすれば岩手県内では8番目に古いものになるが、「庚辰」の文字はみられず、梵字の並びも県内にある他の庚辰塔のものとは異なっている。

(中世石塔その一) 谷起の佐々木政吉氏の屋敷内にある高さ75cm、幅60cmぐらいのもので、正應五年(1292年)八月六日に建てられている。弥栄地区にある石塔(婆)の中ではもっとも古い。正應五年の干支は壬辰であるが、なぜか庚辰と刻まれている。単なる間違いか、あるいは庚辰の日は三宝大吉日にあたり、八月六日の日の干支の可能性も考えられる。梵字は阿弥陀三尊(キリーク、サク、サ)を表しているが、**𩫑**(キリーク)の文字が半分以上摩耗している。御利益を願った人々が削って煎じて飲んだという説もある。司東真雄氏著の「岩手の石塔婆」によると通常はそれぞれの梵字の下、もしくは3つの梵字の下に蓮台が置かれているようだが、これには**𩫑**の下にしか置かれていない。**𩫑**(サク、サ)の梵字は後から付け加えたようにも見える。また、「おこり神」伝説といって、むかし「しらげの洪水」(白髪洪水:1247年に起きた大洪水)の時、どこからか流れてきたという言い伝えもあり、謎を多く含んだ石塔である。

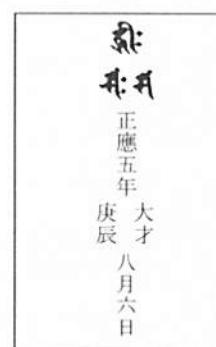
(中世石塔その二) 平沢寺畠菅原喜治氏屋敷裏にある高さ75cm、幅25cmぐらいのもので、応永五年(1398年)三月二十三日に建てられている。梵字は27年忌に用いる**𩫑**(バーンク)と考えられる。



※最後の梵字はナムアミダブツと読める



調査区の石塔



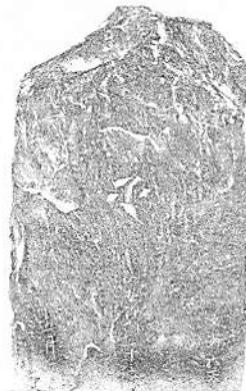
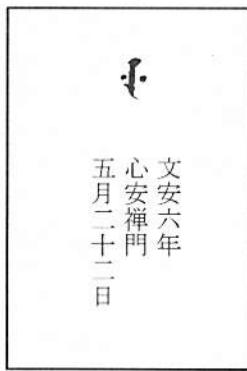
中世石塔その一



中世石塔その二

(中世石塔その三) 滝口氏家庭先八重桜の根本にある、高さ75cm、幅40cmぐらいのもので、文安六年(1449年)に建てられている。郷土誌「弥栄の里」には三十三年忌供養のために建てられたとあるが、三十三年忌に用いる梵字は **タラク** (タラク) で、この石碑の梵字は **人福地蔵** (イ:人福地蔵を意味する) と思われる。楊生古城の東側山裾に位置し、時期的にも重複すると考えられるので、あるいは楊生古城に拘わりのある石塔かもしれない。

「岩手の石塔婆」にある資料によると中世期の石塔(婆)は1081基あり、そのうち花泉町内にあるものが344基と最も多い。藤沢町が229基、平泉町が100基と続き、その次が紫波町の50基で、それ以外の地区は極端に少なくなる。また、ほとんどが北上川流域に分布している。(中世石塔その一)に「おこり神」伝説があったり、調査区内の石塔が流郷に大洪水があった時に建てられていたり、また分布が北上川流域に集中していることを考えると、石塔(婆)と洪水の間に、たとえば洪水を鎮めるために建立するとか、被災者を供養する等の何らかの関係があったのではないかと考えられる。



中世石塔その三

(参考・引用文献)

- 弥栄中学校 (1973) :『郷土誌－弥栄の里－』 萬葉堂書店  
司東真雄 (1985) :『岩手の石塔婆－東北型の板碑文化－』 (株)モノグラム社  
西ヶ谷恭弘 (1994) :『戦国の城』 -上・下・総説編- 學習研究社  
岩手県 (1961) :『岩手県史』 第二・三巻 中世編上・下 (株)杜陵印刷  
花泉町史編纂委員会 (1984) :『花泉町史』(通史) 花泉町史刊行会  
岩手県教育委員会 (1986) :『岩手県中世城館跡分布調査報告書』 岩手県文化財調査報告書第82集 岩手県教育委員会  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第353集 (2000) :『篠館跡発掘調査報告書』 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第371集 (2001) :『川崎の柵疑定地発掘調査報告書』 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター